



? (はてな) と! (びっくり)

「?」疑問符 (ぎもんふ) は、クエスチョンマーク、クエッションマーク (question mark)、インテロゲーションマーク (interrogation mark)、はてなマーク、耳垂れ (みみだれ) と呼ばれる。

疑問文の最後に置かれる。疑問の度合いに応じ「??」「???」と重ねて書くこともある。また、感嘆符「!」を左右において「!?!」「?!」や、合体した「?! (インテロバング)」のような疑問符感嘆符もある。

スペイン語では、疑問符で終わる文の最初に逆疑問符 (¿) をつける。

アラビア語では、文を右から左に書く。そのため、左右反転の疑問符 (؟) を用いる。



question



このマークの起源は?

ラテン語の quaestio の最初の q と最後 o を縦に重ねた合字という説。

疑問文の文末表記「. ~」が記号化されてできあがった説。

何も考えていないように見える猫の後ろ姿から作られた猫背説。

などの諸説あるが・・・どれが本当かどうか?にゃんともわからない?

quaestio
q → ?



「!」感嘆符 (かんだんふ) とは、雨垂れ (あまだれ)、ビックリマーク、エクスクラメーション・マーク (exclamation mark) と呼ばれる。強調を表す。強調を表す文章の後に置かれる。視覚的な表現として、注意や危険であることを表現するために用いられる。?同様ビックリの度合いで!!や!!!や、スペイン語では、感嘆符で終わる文の最初に逆感嘆符 (¡) を置く。例 ¡Hola! (やあ!)



びっくりした! → なにが? → ?の反対のいや? ?があるの! → へー?!

もっとも短い手紙と言われるのが、作家ヴィクトル・ユーゴーが自らの著書『レ・ミゼラブル』の売れ行きを尋ねるために出版社に送った「?」一文字だけの手紙。これに対して出版社からの返事も「!」一文字だけの手紙。



「売れ行きは?」
「本当か?」



「売れ行き上々!」
「本当だとも!」

「ああ、無情じゃない!?!」

5W→5W1H→5W2H→5W3H→6W2H→7W1H→5W1H1R

モトローラ式6W→トヨタ式5W1H→「ヒライ信」式6W4H

新聞記事には「5W」、報告や文書作成には「5W1H」という原則がある。

「いつ?」「どこで?」「誰が?」「何を?」「なぜ?」「どのように?」を漏らしてはならないという。5W1Hは、「何時、何処、何人、何を、何故、如何にして」ということで、「何」が六つあることから「六何の原則」ともいう。

イギリスの児童文学者・詩人のキップリングは、「5W1H」を「六人の賢者」にみたてて

I keep six honest serving-men (They taught me all I knew)

私にはうそをつかない正直者のお手伝いさんが6人居るんだよ（その者達は私の知りたいことを何でも教えてくれるんだよ）

Their names are What and Why and When And How and Where and Who.

その者達のなまえは「なに? (What) 」さん、「なぜ? (Why) 」さん、「いつ? (When) 」さん、「どこ? (Where) 」さん、「どんなふうに? (How) 」さん、それから「だれ? (Who) 」さんと言うんだよ。

しかし、5W1Hが求められるのは、何も新聞記事の書き方に限らない。あらゆるコミュニケーションの場面、人と人との間の意思や情報の伝達の場面でも大切である。「5W1H」だけでは足りないので、

「How much いくら?」を加えた → 「5W2H」

「How many どのくらい?」を加えた → 「5W3H」

「Whom 誰に?」を加えた → 「6W2H」

5回の「なぜ?」を自問自答するトヨタ式の → 「5W1H」

なぜ? なぜ? なぜ? なぜ? なぜ? どのように
Why? Why? Why? Why? Why? How?

六つの「なぜ?」を問えというモトローラ式 → 「6W」

Why? Why? Why? Why? Why? Why?

「Result (どうなったか)」を付け加え → 「5W1H1R」

犯罪捜査や刑事訴追には → 「八何の原則 (7W1H)」

だれが (Who)、だれと (with Whom)、なぜ (Why)
いつ (When)、どこで (Where)、何を (What)
どんな方法で (how)、何をしたか (what)

などのバリエーションがある。

そこで、私・ヒライはもう一つの「H」を加えて「6W4H」を提唱したい。

その「H」は「Humor (ユーモア・笑い)」である・・・

この「ヒライ信」作成には、とくにこの「Humor」を重視している。

いつ?	どこ?	だれ?	何を?	なぜ?	誰に?	どうや って?	いく ら?	どのく らい?	ユーモ ア!?
When	Where	Who	What	Why	Whom	How	How much	How many	Humor

そして、読者に「?」

「!」を提供したい。

